

学校部活動の地域クラブ活動への移行の取組について

教育委員会事務局 生涯学習・スポーツ課

1 取組の背景

(1) 学校部活動の現状 ……資料№.6-2

(2) 課題

- ・少子化に伴う部活動数の減少と選択肢の減少による体験格差（スポーツ・文化芸術）
- ・専門的な知識や経験が少ない教職員による指導（スポーツ・文化芸術）
- ・勝利至上主義やコンクールへの上位入賞等、過度の期待（スポーツ・文化芸術）
- ・長時間化する運動部活動の活動時間と継続する部活動延長の社会体育（スポーツ）

2 経過概要

- ・飯田市では、学校教育と社会教育との連携により、学校部活動の適正化や全市型競技別スポーツスクールの実施、生徒の主体性を育む冬季ジブン・チャレンジ期間等、令和元年度から取組を進めてきた。
- ・昨年12月に国から示された学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドラインでは、各都道府県が策定するガイドラインを受けて、各市町村において推進計画を策定するよう求めている。
- ・県からのガイドラインはまだ示されていないが、飯田市では、今年度5月から関係団体等による連携協議会を設置し、休日の部活動の地域連携、地域クラブ活動への移行についての検討を進めてきた。
（本部会・文化部会・スポーツ部会 計7回）

3 取組の目的と基本的な考え方

中学生が、ウェルビーイングを感じながら、地域の中で、主体的に様々な文化芸術・スポーツ活動に取り組むことを通じて、心身の健やかな成長と豊かな社会性を育む

- ① 生徒がやりたい文化芸術・スポーツをできる地域環境をつくる
- ② 生徒が文化芸術・スポーツの楽しさを実感できる場をつくる
- ③ 生徒が生涯にわたり文化芸術・スポーツに親しむ意識と習慣を育む
- ④ 高い技能レベルをもつ生徒を地域で育む

- ・単に現在の部活動を地域移行するのではなく、これまでの取組を土台に、中学生のウェルビーイングを中心においた、より良い文化芸術・スポーツ活動の場を、学校・保護者・地域が連携し地域ぐるみでつくっていくことを共通理念とする。

4 目指す姿

中学生を含む多世代が、ともに文化芸術・スポーツ活動に親しみ、地域の中で多様な活動が次世代へ継承されている。

5 部活動の地域クラブへの移行に向けた推進目標・・・資料№.6-3

『令和8年度末までに休日の学校部活動を地域クラブ活動へ完全移行』をめざす。

※現在の小学校4年生が中学校1年生となる時期

6 具体的な取組

(1) 拠点校方式による段階的な移行 ※校長会や各競技専門部、競技団体と連携して進めていく。

・生徒のニーズに応じていくために、3つのエリアを拠点校として生徒の選択肢を広げていく。

・基本的な枠組 ※種目や分野によって柔軟に対応していく

Aエリア『緑ヶ丘中・竜東中・竜峡中・遠山中』

Bエリア『高陵中・飯田東中・飯田西中』

Cエリア『鼎中・旭ヶ丘中』

・令和6年度は、女子ソフトボール、男子バレーボール、合唱部等できるところから進め、段階的に地域クラブ活動へ移行していく。

・学校と地域をつなぐ人材や地域指導者等の人的支援を含めて、拠点校エリアの体制づくりを検討する。

(2) 多様な種目（分野）にチャレンジできる環境づくり

・全市型競技別スポーツスクール・文化芸術講座の充実

・適正な活動時間の徹底と生徒の主体性を育む冬季ジブン・チャレンジ期間の充実

・インクルーシブな活動環境づくり

(3) 地域クラブ活動の移行に向けた組織・体制づくり

・実情に応じた運営組織の検討、送迎・会費等の保護者負担の課題解決策の検討

(4) 保護者、地域の理解促進のための情報発信

・教育委員会情報誌による広報や小中学校及びPTAと連携した説明会の実施

・飯田市の目指す方向、推進計画のリーフレット作成と配布

7 当面の推進日程

・連携協議会 11月、2月

・スポーツ推進審議会 12月、3月

・3月定例教委 3月14日 取組方針の決定

※県等の動向をふまえ、進め方について判断していく。

※随時、保護者や学校、関係団体からの意見集約を行い反映していく。

8 その他 飯伊地区の広域的な取組との連携について

・飯田下伊那地区の中学生が多様な文化芸術・スポーツ活動に触れる機会を提供することを目的に、飯伊市町村教委連絡協議会を中心に、『エンジョイスクエア』を開催している。(11月～12月の土日に実施、46種目) 今後は、これらの動きとも連携しながら進めていく。